

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	アミーゴ			
○保護者評価実施期間	R8年 1月 27日		～	R8年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6家庭	(回答者数)	5家庭
○従業者評価実施期間	R8年 1月 27日		～	R8年 2月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数)	14名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 24日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	文章から見える療育を実現できている	良かったところも、そうでなかったところも連絡帳に記入している。また写真や動画をお伝えする事でより詳しく伝えられるようにしている。保護者との連絡を密に取り合い、職員間でも情報共有を常に行っているため、関わる人が変わってもほぼ同じ対応ができるように心がけている。保護者が実際の活動に参加し、アミーゴでのこどもの様子を参観していただく機会を増やす。	保護者が実際の活動に参加し、アミーゴでのこどもの様子を参観していただく機会を増やす。
2	基準以上の職員配置をしている	多種多様な経験を持つ職員が在籍しており、いろんな角度から問題に対してアプローチすることができる。お子様1人1人に掛ける時間の確保ができる。	休日や長期休暇時の集団活動は、縦割りの日もあれば年齢にや特性に応じた活動の日も増やしていきたい。
3	職員の離職率が少ないためお子様が不安な気持ちになることが少ない	社員・パートの隔たりがほとんどなく、意見交換がしやすい雰囲気がある。それによって各職員が子どもたちのために考えた関わりができている。やってみたことに対して、否定的な意見が出る事はほぼない。そのため、パートも自信を持って援助することができる。	全ての職員のスキルが上がるように研修などの時間を増やしたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門的(国家資格)な知識をもつ職員が少ない。	専門的な国家資格を持つ職員の確保が難しい。	社外研修の機会を増やし、個々のスキルアップを図る。資格だけではなく人間性が問われる職種でもある為、対人スキルトレーニングには力を入れていきたい。
2			
3			